

みやけの風

第 166 号

平成16年(2004年)3月13日(土)発行
 発行：三宅島災害・東京ボランティア支援センター
 発行責任者：上原 泰男
 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ 10階
 東京ボランティア・市民活動センター気付
 TEL：03-3260-7573 FAX：03-5229-1646
 E-mail：tokyocenter@cmpo.org

急に暖かくなってきたなと思ったら、桜のつぼみが色づきはじめていました。つい、この間までは梅見の季節だったのに……。今年も桜は早いのでしょうか。桜が咲くと春を実感しますね。一時帰島に行った時、島の桜を見れば良いなと思います。

みんなの声

ジャックモイヤーさんを偲ぶ会

3月7日(日)「モイヤー先生を偲ぶ会」が、都内のホテル海洋で行われた。この日は、先生の75歳の誕生日にあたる日であった。

全国から約500人の来場者があり、また、多くの方からメッセージが寄せられた。三宅島からも平野村長はじめ多数の方が列席され、故人を偲ばれた。魚類研究者や海の世界教育関係者、ジャズ音楽仲間からのスピーチもあり、生前の先生の幅広い交友と、温かい人柄を感じさせる会であった。

この会の会場運営は、海の教室で学んだ中学生や高校生をはじめ、50名以上のボランティアの手で行われた。

海や自然を愛し、その大切さを多くの人に伝えてきたモイヤー先生の志は、今後、教えを受けた方々を通じ、21世紀の子ども達へ引き継がれていくことを確信した。

「モイヤー先生！安らかに眠ってください。」
 2004年3月12日

(『モイヤー先生を偲ぶ会』事務局 海野)

がくあじさいの会の旅行

皆、元気だった？と次々と声をかけ下田の駅で大年さんと竹村さんとで待っていました。皆の姿を見てなんだかすごくほっとした面と切ない面が顔を出し、噴火さえ無かったら、一緒に仕事をしていたのと思うばかりでした。

海が見たい……。空気がいい……。私はそう、この下田にはもう、4年も住んでいるので、さほど感じることもさへ無く東京から来た島の皆にとっては、きっとそう思うのでしょう。

レンタカーを借りて、向うは、すぎのこ作業所、三宅島みたいな道だねと言いカーブの多い道を走って行きました。その作業所では、陶器を作り、見事なものでした。いつかきっと島で作業ができれば……。と作業を眺めておりました。

離れ離れになり今は活動も何もできない。自分にとってがくあじさいの会は生活の一部でもあったのだと、強く感じさせられました。私だけじゃなく皆そう思っているのだろうと。

子どもたちとも久しぶりに会い、島での思い出をその日語ることができました。久々に車椅子を押して、懐かしさでちゃんと押せるかな？と思ったくらいでした。

下田須崎方面を車で行き、山本一家と顔を会わせ、久しぶりに会う坪田地区の皆は、嬉しそうでした。又、海の方に目をやると今日は利島、新島がぼんやりと見えていました。天候がいいと三宅島のガスが見えるのです。

1泊2日なんてあっという間に過ぎてしまい、帰り際、大年さんたちと見送りをさせていただきました。皆が来る時はそわそわしていたけど、戻るとなると、寂しさが増していきました。

又、下田に来てくださいねと伝えたけど、本音は早く島に戻ることそして、あそこからまた新たにスタートをしたい……。と願うばかりでした。

(下田市 池田 弘子)

がくあじさいの会 下田へ

避難以来、他の交流旅行へは何人が参加したが、会として19人も集まる旅行は初めてでした。車イス2台をものともせず、踊り子号で一路下田へ。ちょっとしたハプニングで2人



3月20日(土)、三宅島支援東京センターは、お休みをいただきます。「みやけの風」も、休刊です

乗り遅れたけれど、新幹線で追い越し、熱海で合流とは、テレビドラマのサスペンスものを見ているようでした。

快晴のなか、車窓から海や大島が見えるたび、みんな歓声を上げていました。下田駅へ着くと、会員の池田さんや阿古の大年さんが出迎えてくれ、うれしい再会をして、福祉作業所の「すぎのこ学園」へ研修に向かいました。

陶芸工房で、土をこね、いろいろな形の作品を作っているのを見て、すばらしいとおもいました。市長さんの叙勲記念の皿なども、納品したところだとか。自分たちで

作った作品を第2作業所として店を出し、販売していました。私たちにも、何か活かせることが出来たらなぁと思いながらホテルへ向かいました。

ホテルは段差もあり、少々大変でしたが、夜の食事は大変盛り上がり、久びさの楽しい時を過ごしました。

翌朝、強風のなか市内を散策したあと、3時発の踊り子で、大年さんたちに見送られながら下田を後にしました。

今度はみんな元気で、また、三宅島で逢えることを心から祈っています。

(西東京市 北川 由紀)

「がくあじさいの会」って？

平成2年、心身に障害を持つ本人とその家族が集まり結成。週一回会員が集まって、アルミ缶リサイクルや食事会などの活動を楽しみながら行っていた。平成6年より、東京都と三宅島の助成を受け、週4回の地域サービス事業を開始。平成8年に、三宅島社会福祉協議会へ『地域サービスがくあじさい』が移管され、共同で事業を行う。現在会員数は、約100名。

～「地域サービスがくあじさい」の主な活動～

収益事業	アルミ缶リサイクル活動	貝のキーホルダー作り活動	雑巾・布ぞうり・ネームシール作り
交流事業	各保育園・小学校・中学校・高校との交流、特養との交流		ボランティア活動の受入れ
	台東区内障害者団体による「三宅島ウォーク」、福祉まつりなどのイベント参加		
その他	定期的なレクリエーション、温泉入浴、料理教室 年1回利用者・家族懇談会、創作活動運動、役場・保健所の保健師の協力による健康相談		

【東京都内移動確定申告相談会】

【三宅島】は国税局長官により『災害地域』に指定され、税金に関する申告・納付期限は延長されています。しかし、避難先にて事業再開されている方はもとより、そうでない方でも、帰島後一定期間内に申告・納付が生じます。今から準備をしておかなくては、帰島後の忙しい中での確定申告となりますと大変な作業になると思われます。そこで、商工会では下記の通り移動確定申告相談会を開催致します。

記

- 日時会場
 - 平成16年 3月16日(火) 午後1時00分から午後4時00分
東京浜松町海員会館会議室 (港区海岸1-4-9)
 - 平成16年 3月17日(水) 午後1時00分から午後4時00分
多摩ニュータウン向陽台団地3号棟集会場 (稲城市向陽台4-5)
 - 平成16年 3月18日(木) 午後1時00分から午後4時00分
八王子市南大沢健康福祉センター会議室 (八王子市南大沢2-27)
 - 平成16年 3月19日(金) 午後1時00分から午後4時00分
三宅島桐ヶ丘ボランティアセンター2階 (北区桐ヶ丘団地)
 - 平成16年 3月22日(月) 午後1時00分から午後4時00分
(財)多摩中小企業会館会議室 (立川市錦町2-2-32)
 - 平成16年 3月23日(火) 午後1時00分から午後4時00分
東京浜松町海員会館会議室 (港区海岸1-4-9)

- 対象者 商工会会員・青色申告会会員・会員外
- 相談員 商工会職員・税理士
- その他 確定申告相談会を実施しない地域(避難先団地)においても、要望がありましたらお伺い致します。会場には駐車場がありませんので、お車でのご来場はご遠慮下さい。

主催 三宅村商工会
共催 (社)芝青色申告会三宅島地区青色申告会